



ドイツからの  
環境・エネルギー  
先端レポート

●松田 雅央(まつだまさひろ)  
1966年盛岡生まれ。カールスルーエ市在住ジャーナリスト。  
1992年東京理科大学工学研究科大学院修了、1995年渡独。  
趣味はサイクリング。自然豊かな農村地帯を走る爽快さが好き。  
<http://www.umwelt.jp/>

## カエルの森を守る

### 失われゆく自然と生き物

ドイツの野生動植物もその多くが生息環境を脅かされています。ドイツ環境省のまとめた「絶滅のおそれのある野生生物リスト(1998年)」、いわゆるレッドデータブック(ドイツではレッドリストと呼ばれる)によれば、国内に生息する脊椎動物と非脊椎動物45,000種のうち16,000種が生存のリスクを抱え、その中でも3%がほぼ絶滅状態です。

ライン川に面する約40ヘクタールのブルガウ自然保護区域(写真1)もまた、貴重な動植物の生息地になっています。ここは西にライン川が流れ、北に高速道路、東と南を工業地帯に囲まれた自然の孤島になっており、湖・湿地・森(写真2)・畑が美しい景観を織りなすところです。1960年代、この地域に住宅地の建設計画や工業地帯の拡張計画が持ち上がりましたが、環境保全団体の反対運動にあって断念されました。この区域自身が「生存の危機」をくぐり抜けてきたわけです。



写真1 自然保護区域を示す看板



写真2 行者ニンニクの花が咲くブルガウ自然保護区域の森

ここがまだ保護区域に指定されていなかった頃の話。環境保全団体NABU(ナブー)の会員アルパートさんは故郷であるこの土地を久しぶりに訪れ、急速に失われゆく自然に激しいショックを受けたそうです。彼はそれをきっかけに活動を始めましたが、彼がいなければここが保護区域になることはなかったというキーマンです。どんな環境保全活動も元を辿れば個人の「熱い思い」に行きつくことが多いように思います。

### 環境保全活動は市民の手で

さて、この地域のヨーロッパヒキガエルも生息の危機に瀕している動物です。これを保護するため自然保護団体が活動し、ついには写真3のようなコンクリートの壁を作っていました。



写真3 カエル用の壁と鹿用の柵

このカエルは普段森に棲み、春になって気温が4℃を超えると産卵のため水辺へ移動します。水辺の豊富だった昔は問題ありませんでしたが、道路や工業地帯に囲まれた今日、間違っても迷い込んだカエルは命をつなぐことなく死んでしまいます。これはそれを防ぐための壁です。道路に面しているところでは「カエルの交通事故」を防ぐためトンネルが作られ、市民が迷ったカエルをバケツリレーすることさえあります。

ドイツにも自然環境をおごなりにした長い歴史があり、その反省から「どのような生物でも必要であれば保全する」のが基本姿勢となりました。ハリネズミのため家の庭に棲みかを用意したり、天井裏にコウモリの巣を作ることが奨励され、その方法は自治体の環境局が資料を作成して紹介しています。レッドデータブックに載る生物だけでなく、その他の生物も「自然の豊かさの指標」としての役割があり、保護活動をきっかけとして環境意識の深まりも期待できるでしょう。

ちなみに、壁の上の柵は区域に生息する鹿のためのものです(現在15頭)。壁は市民の働きかけで自治体を作り、柵は自治体の予算を使い自然保護団体が間伐材を利用して作りました。

環境保全の真の担い手は市民でなければなりません。行政は「箱」を作ることではできませんが、実際の活動は市民が責任を持ってこそ、地に根付き、真の意味を生みます。

#### 編集後記

皆さん、こんにちは。  
例年とは異なり、今年は涼しい日が多いですね。もう、夏が終わってしまったのかな?と思うほどです。富士山でもその兆候があるようで、甲府地方気象台は8月27日、8月9日に富士山頂で観測された降りよを今年の初冠雪(山頂での一日の平均気温が最高となった日以降に初めて頂が白く冠雪した日)と認定しました。これは、観測史上最も早いとのこと。地球温暖化の影響でしょうか?今年、このこと以外に集中豪雨や雷雨の多発など、異常気象が散見されるように思います。

ところで、皆さんは「カーボンオフセット」という言葉をご存知でしょうか?「カーボンオフセット」というのは、自分が排出した温暖化ガスを別の場所・別の人が実施する「温室効果ガス削減事業」の効果を得る事で温暖化ガスの排出量を差し引きゼロにするという考え方です。最近、インターネットを通じて個人でも参加できるようになっています。山や海をキレイに保つために、自分で出したゴミは自分で持ち帰るという風にして、地球を守るために自分で出したCO2は、自分で責任を持ってゼロにする。そんな心がけが地球温暖化防止には大事かもしれません。(さわだ)

※写真 写真家阿久沢利夫氏が撮影した森の写真をお届けします

軽井沢町は明治21年、アレキサンダー・クロフトン・ハウスが最初の別荘を建ててから発展し、多くの観光客が訪れています。そこで毎年開催される「ジュー・ロ・テ軽井沢」。新緑の中を走るこのクラシックカーラリーの道すがら旧軽と言われる別荘地で撮影したものです。



ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社  
Deutsche Asset Management  
A Member of the Deutsche Bank Group



投資信託営業部  
☎ 0120-442-785  
(受付時間:営業日の午前9時から午後5時)  
<http://www.damj.co.jp>